

平成25年定例第4回金沢市議会

平成25年12月10日

○粟森 慨議員 会派みらいの一員として、以下数点お伺いいたします。

まず初めに、市長マニフェストと明年度予算編成の方針についてであります。

3年前の市長選挙で、マニフェストを掲げ、初当選され、本日12月10日をもって山野市長の今任期最後の1年がスタートいたしました。その公約の達成度については、本年2月、マニフェストの進捗状況中間報告書で、全36項目中、実行しているもの20項目、一部実行しているもの8項目、検討をしているもの5項目、見直すもの3項目と、あくまでも内部の評価として報告をされております。その中で、市長多選自粛条例の制定や月1回の定例記者会見など、早々に公約を実現されているものや、金沢シティフルマラソンなど、開催に向け軌道に乗っているものについては評価する一方、一部実行しているものや検討していると報告されているものの中で、今後の達成見込みについてははっきりしない項目があるのも事実です。そこで、大きな注目を集めた公約の中で、見直しと判断されていない項目について、今後どのように取り組まれていかれるのか、3項目についてお伺いいたします。

まずは、市長の退職金の減額についてであります。本市において、市長の退職金は、特別職の職員の退職手当支給条例の規定でその額が決められており、この額を変更するに当たっては、金沢市特別職報酬等審議会条例の規定により、第三者に意見を伺った上で、条例改正案を議会に諮ることになっております。この減額については、財政状況にかかわらず直ちに取り組むことができる項目であると考えますが、諮問される時期と減額される額についてどのように考えておられるのかお聞かせください。

第2に、子どもの医療費助成を通院、入院ともに中学3年生まで拡充させることについてであります。山野市政が誕生してから、入院、通院ともに年齢の引き上げをされましたが、公約どおりになっているわけではございません。引き続き、事業費の推移や今後の財源確保等を見きわめながら検討していくこととありますが、財政状況が厳しい中であっても、市長の思い一つで重点的に予算を配分すれば実現できることではないでしょうか。そこで、この医療費助成の拡充について、今後どのように取り組ん

でいかれるのかお聞かせをください。

第3に、固定資産税・市民税の見直しについてあります。これは検討している項目に上げられてはいるものの、諸事情により現時点では見直しを行わず、今後の経済情勢や税制等の動向を注視しながら、引き続き検討していくとのことであり、高いハードルがあることを承知しております。この見直しについて、今後どのように検討されていかれるのかお聞かせをください。

そのほかにも、手つかず、または実現に向け足踏みをしていると受けとめられる項目も見受けられます。これらの項目は、短期・中期・長期の目標と区分けをされておりますが、あくまでも市長の任期は4年であり、この期間内に実現、ないし少なくとも一定のルールを敷いてしまうことが求められてくると考えます。そこで、これらの公約実現に向けどのように再評価されるのか、残り1年となった今任期での実現に向けた思いをお聞かせください。

ところで、このマニフェストの実現のためにも、明年度の予算編成に注目が集まります。先月、明年度予算編成方針が通知され、その中では、近く取りまとめる重点戦略計画に基づき、明年度を交流拠点都市具現化策の本格化の年と位置づけ、積極的な施策の展開を図るとともに、国の成長戦略と歩調を合わせた地域経済の活性化や、明年末に迫った北陸新幹線の開業に向けた準備の総仕上げに全庁を挙げて取り組むとされております。一方で、依然として厳しい財政状況を踏まえ、国と地方、行政・市民の役割分担を明確にしながらも、諸施策を着実な推進を図るとも記されております。この基本的な考えをもとに、5つの重点施策を掲げ、重点戦略計画を策定しながら予算編成に取り組むとされておりますが、この重点戦略計画がどのように反映されるのかお聞かせをください。

また、北陸新幹線開業の準備の総仕上げや、緊急性や実効性、優先度を踏まえながら、選択と集中による重点予算の編成に取り組むとされており、その編成の際に、マニフェスト実現へ向けた予算配分が当然組まれることと思っておりますが、予算編成に向けどのように取り組まれていかれるのか、その思いのほどをお聞かせください。

質問の第2は、新幹線開業に向けたにぎわいの創出と首都圏プロモーションの強化についてであります。

新幹線の開業まで1年半を切り、北陸新幹線に導

入される車両の姿がお披露目され、試験運行も始まりました。この開業を心待ちにしながら、本市でもさまざまな取り組みがなされており、10月には北陸新幹線開業記念キックオフイベントがもてなしドーム地下広場で開催されました。このイベントでは、沿線都市や近隣市町のPRブースが設けられ、また、新幹線1000人レールウォークも開催されるなど、2日間で約1万人が来場し、駅東広場、もてなしドームはかなりの人でにぎわっていたとお聞きをしております。さて、このイベントが開催された週末には、しいのき迎賓館でのおしゃれメッセ、武蔵での山海まつり、香林坊では片町ホコ天など、市内中心部が連携し、さまざまなイベントが開催され、にぎわっておりました。しかし、今回のイベントに足を運ばれた方は市内や近隣市町などからの方が多く、地元活性化という面では役立っておりますが、このにぎわいを利用して県外からの来街者をふやしていくことにつなげることも重要であると考えます。そこで、このようなイベントを含め、イベント情報をまとめて首都圏などへ発信し、誘客に結びつけていくべきと考えますが、御所見をお伺いいたします。

ところで、イベントは昼のみではありません。夜に金沢らしい魅力をつくり出すことで、本市に滞在する時間もふえ、宿泊客の増加につなげることも忘れてはなりません。その方策の一つとして、プロジェクトマッピングが上げられます。本市では、このマッピングを9月に、ナイトミュージアム事業の一貫として中村記念美術館で、また、10月には、金沢工業大学の学生が制作したものがもてなしドームで投影されるなど、夜の新たな魅力づくりに努められております。それに加え、おしゃれメッセ事業の一貫として行われたしいのき迎賓館プロジェクトマッピングは、金沢の工芸をテーマにして、世界的な作家の映像が投影されました。その映像は幻想的で、あいにくの天候であったにもかかわらず、2日間で約6万5,000人も多くの人で会場が埋め尽くされたとのこと。そこで、本市で最近投影されているプロジェクトマッピングについて、どのように評価し、どのように生かしていくおつもりなのか、また、夜の観光誘客イベントとして活用すべきと考えますが、市長の率直な御意見をお伺いいたします。

さて、首都圏などから多くの方々に来ていただくためには、訪れたいような金沢のイメージを伝える情報発信が重要であり、その発信の内容一つで

人の心は左右されます。ことしは、主に鼓門や東茶屋街、長町武家屋敷のポスターで情報を発信していましたが、今後も同じテーマのポスターで首都圏プロモーションを行うのか、注目が集まるところであります。ところで、我が国の食文化は諸外国から高い評価を受けており、その中でも金沢の食文化は極めて高く評価をされております。国においても、日本食文化の無形文化遺産登録に取り組み、「和食；日本人の伝統的な食文化」と題してユネスコ登録申請を行った結果、この12月に登録が決定いたしました。そこで、金沢の食文化を関連づけ、観光誘致につなげる絶好の機会と考えますが、市長はどのようにお考えでしょうか。

さて、明年2月に東京スカイツリーの大型ビジョンで金沢市プロモーションCMが放映されることに加え、首都圏を走る電車内のモニターや大型ディスプレイなどで放映されるとのことです。この情報発信は、放映される映像もさることながら、地域や場所、発信手段などが非常に重要なポイントではないかと考えます。そこで、今回のCMはどのようなテーマで制作され、金沢を売り込むために何を発信するのかお聞きをするとともに、東京スカイツリーや電車内以外のどのような場所で放映していくおつもりなのか、御所見をお伺いいたします。

質問の第3は、姉妹都市交流と2015 J C I 国際会議についてであります。

まず、姉妹都市提携についてですが、この提携は、規模や性格の似ている2つの都市の市民が、歴史、文化、言語などいろいろな差異を超えた友情によってかたく結ばれ、文化や社会・経済の交流を通じて相互理解を深め、国際親善と世界平和に役立てようとするものであります。しかも、現在の東アジアの国際情勢を考えると、海外姉妹都市の果たす役割は平和外交を助けるためにも一層重要性を増しております。現在、本市は7都市と姉妹都市提携、1都市と友好都市提携を結びながら、この役割を担い、一方で、青少年の育成、芸術・文化・伝統技術の向上を目指しつつも、他都市の先進施策を取り入れ、これらの交流を通じて金沢の魅力を世界に発信するなど、あらゆる形で交流を深めております。そこで、市長はこれまでの姉妹都市交流について何をどう評価されておられるのか、御所見をお伺いいたします。

また、交流拠点都市を目指し、取り組みをされてますが、姉妹都市交流として具体的にどのようなことをされてきたのか、加えて、今後の見通しにつ

いてどのように考えておられるのかお聞かせください。

さて、11月7日、市長はリオデジャネイロで開催されたJCI世界会議の総会に向け、1泊5日の強行日程を組まれ、2015年の世界会議の金沢開催のための誘致プレゼンテーションをされました。その総会で、市長は英語で、日本の歴史や文化に加え、金沢の食の魅力などを伝えるとともに、新幹線開業により交通アクセスがよくなることやジャパンテントなどの国際交流イベントの実績等を含め、万全の受け入れ態勢をアピールされたことで、2015年世界会議の金沢開催が正式に決定されました。その御努力に敬意を表したいと思います。そこで、この世界会議誘致成功についての思いを伺うとともに、大会に向けた期待と意気込みをお伺いいたします。

ところで、この会議は参加者が1万人を超える規模であり、地方都市では珍しく、国外から2,000人の方が参加されると聞いており、大会成功に向け万全の準備を進めていかなければなりません。本市は、これまで多くの会議や学会などをこなされ、宿泊施設等も整備されておりますが、海外からの参加者が2,000人を超える会議は本市ではほとんど経験したことがございません。そこで、これらの諸課題について対応する手だてをどのように考えておられるのかお伺いいたします。

質問の第4は、市長の政治姿勢についてであります。

来春、任期満了に伴い、石川の今後4年間の将来を決める知事選挙が行われる予定となっております。現在の選挙構図は、5期20年務められている現職知事が6選を目指し、各政党や各種団体から支持を集めながら、着々と選挙準備を進められていると報道されており、今後もその動向に注目が集まっております。さて、今回の知事選挙であります。3年前の金沢市長選挙と同様、現職首長が5期20年の任期を務められ、6期目への挑戦をされるということで、山野市長が初当選された金沢市長選挙が思い出されてなりません。当時の金沢市長選挙では、首長の多選が大きな選挙争点となり、本市議会でも直近の9月定例会において、議会側から金沢市長の在任期間に関する条例案、いわゆる多選禁止条例が提案され、その当時の山野議員も条例案に賛同されましたが、結果として少数否決となりました。その後行われた金沢市長選挙では、山野市長が首長の多選を批判し、有権者から支持を得て当選され、翌年6月の定例会

では、市長みずから、金沢市長は3任期を超えて在任することのないよう努めるとの条例案を提案し、可決に至っております。これらの経緯からすると、山野市長は多選という事柄に関し、ひとしおの思いを持たれていると受けとめていましたが、今回、現職知事の後援会副会長になられたことで、多選への考え方に疑問を持った市民も少なくないと感じており、私自身、どう理解すればよいのか答えが見出せません。つけ加えて申し上げるならば、平成22年9月の定例会において、市長は、6期24年とは、生まれただけの赤ん坊が成人式を終え、社会に出て活躍するという随分長い期間と言えますと述べるとともに、前山出市長が就任1期目に首長の多選を問われた際の、ころ合いというものがあったのではないだろうかとの議会答弁を引き合いに、6選出馬表明との整合性を問いただしておられました。また、先ほど述べた市長みずから提案された条例は、清新で活力ある市政の運営を確保し、多選による弊害を防止するためだと提案理由で説明されておられます。であるならば、県政は清新で、多選の弊害のおそれがないと判断されているということにならないのでしょうか。刷新、あるいは多選という二文字は、市レベルだけで議論されるべきものではなく、そうしたテーマについて選挙戦を通じ市民に問いかけた結果、山野市政が誕生したと考えるのは私一人だけではないと考えます。そこで、市長の多選についての考え方が以前と異なっているのか、そして、これらの過去の経緯から多選を容認しない立場であったはずなのに、なぜ後援会副会長を受けられたのかをお伺いいたします。

また、その後の定例記者会見で、後援会副会長就任について述べられ、政治家として、または金沢市長の立場から、現職の知事が取り組むことにおいてできるだけ歩調を合わせて取り組んでいくことが望ましい、あるいは県政と市政の連携の中で引き受けさせていただいたとコメントされておりました。しかし、本来、県と市の関係は、選挙戦で歩調を合わせ連携されるのではなく、共通の目標達成に向け歩調を合わせ連携し向き合っていくことが重要で、金沢市民の福祉向上について真摯に取り組んでいただくのは県知事として当然です。そこで、県と市の正常なあり方、連携についてどのような考えを持たれているのかお聞きをし、質問を終わります。

(拍手)

○清水邦彦副議長 山野市長。

〔山野之義市長登壇〕

○山野之義市長 21番栗森議員にお答えいたします。

マニフェストと次年度の予算のことについてお尋ねがございました。退職金の減額のことですけれども、御指摘ありましたように、特別職報酬等審議会において一定の案が出されます。平成22年度に開かれました審議会におきましては、他の中核市との均衡を図ることが望ましいとの御意見があったことや、また、今もそうですけれども、職員の退職手当を国家公務員に準じて見直したことなども考慮しながら、今任期中に見直しを検討してまいりたいというふうに思っています。

子どもの医療費の助成のことについてお尋ねがございました。子どもの健やかな育成を図り、子育てをしやすいまちづくりをすることは大切だというふうに思っていますし、助成の拡大は今も重要な施策だという認識は変わりません。また、ただ、一方では、市民行政評価におきまして、助成の拡大には多額の財源が必要なことから、所得制限の導入や自己負担額の引き上げなどが指摘をされているところでありまして、どうあるべきか、これは来年度の予算編成の中で十分に検討をし、予算化に向け努力をしていきたいというふうに思っています。

固定資産税・市民税のことについてお尋ねがございました。報道等で御存じのように、現在、国におきまして、法人実効税率の引き下げ、固定資産税の償却資産の軽減措置、また、法人住民税を一部国税化し、地方交付税として再配分することについて、まさに議論がなされている最中でありまして、市税の見直しにつきましては、そうした国の税制改正や経済情勢の動向を注視するとともに、全体の影響を勘案しながら検討していくことが必要であるというふうに思っています。

これまで手がついていないもの、また、足踏み状態のものにつきましては今任期での取り組みについてお尋ねがございました。御指摘ありましたように、実現の目標を私なりに短期・中期・長期に分けてお示しをし、先般、中間報告をさせていただいたところでもあります。これも御指摘ありましたように、経済社会情勢の変化や国の制度改正、財政事情などの変化により、修正を余儀なくされたものもあります。引き続き実現を目指す項目につきましては、近くまとめます重点戦略計画の中にも反映をしていきたいというふうに思っています。今ほど申し上げましたように、マニフェストに掲げた項目で引き続き実現

を目指すべきものは、重点戦略計画の中に反映もしていきたいというふうに思っています。これまでも、事前の市長ヒアリングを実施しましたほか、要求基準に特別枠を設けるなど、予算の重点配分に意を用いることにしているところであります。

プロモーションのことについてお尋ねがございました。イベント情報を早くに首都圏にという御意見がございました。本市におきましても、百万石まつりやジャズストリート、おしゃれメッセ等々、四季に応じたさまざまなイベントがあり、市民・県民のみならず多くの方たちに楽しんでいただいているというふうに思っています。本年度は、ことしは首都圏の旅行代理店がジャズストリートの鑑賞をセットにした旅行商品を初めて企画・販売をし、好評を得たというふうにお聞きをしています。これからも、本市で開催されるイベントにつきましては、詳細が決まり次第、早い段階で定期的に旅行代理店等に情報提供するほか、首都圏有力広報媒体を活用したタイアップ企画や雑誌等のパブリッシングを通じた情報発信を強化し、誘客に努めていきたいというふうに思っています。

夜の魅力についてお尋ねがございました。プロジェクトマップは、中村記念美術館や鼓門で開催しましたものは、実は学生さんが主体となって制作したものであります。おしゃれメッセのときにあわせて、しいのき迎賓館で実験的に開催したものは、一流のアーティストの方にしていただきました。実は私も、恐らく多くの日本人の皆さんは、プロジェクトマップという言葉は、東京駅のプロジェクトマップを見たときに認識をされたんではないかというふうに思っています。私もニュースやネットで拝見をしました。正直言いまして、見たときは、あれは東京だからできるんではないかという思いがいたしました。ただ、去年の夏、フランスのナンシー市とベルギーのアントワープ市にお伺いしまして、さまざまなナイトカルチャーの施策を拝見いたしました。特にナンシー市におきましては、TGV対策、我々でいう新幹線対策だと思いますけれども、TGV対策としてプロジェクトマップも行っている旨の説明をいただきました。それであるならば、私は金沢市といたしましても新幹線対策として、夜の魅力を高めることによって滞在時間を長くしてもらい、その趣旨からプロジェクトマップをすることができないのか、そういう思いで、ことしのおしゃれメッセのプロジェクト

マッピングにつながりました。御指摘のように、大変大きな反響もありましたし、地元の方たちだけではなくて、地元以外の方たちからも大変高い評価を得ているところでもあります。これからも、今後の開催について関係機関等と十分に協議をしながら検討をしているところでもあります。ただ、イベントとしてのプロジェクションマッピングは私は大切だと思っていますけれども、私は金沢の夜間景観というものは、金沢らしいしっとりとした品のある風格のある夜間景観が日常的・恒常的に望ましいものだというふうに思っています。本年度も、寺町であったり幾つかの地域に、実験的に金沢らしい夜間景観を行ったところでありまして、この実験の成果を踏まえながら、日常的・恒常的な夜間景観とともに、イベントとしてのナイトカルチャーというものも考えていきたいというふうに思っています。

食文化と誘客のことについてお尋ねがございました。先般、東京・渋谷におきまして金沢カフェを開催し、加賀野菜を中心とした食の発信をしたところでもあります。国内外の日本食文化に関する評価の高まりを機に、これからも首都圏でのイベントやメディアを通じたPRの強化もしていくことによって、観光誘客に努めていきたいというふうに思っています。そのためにも、9月議会で皆さんが御制定いただいた食文化条例というものは力強い推進役になるものというふうに思っています。

プロモーションCMのことについてお尋ねがございました。「新しい金沢、はじまる。」、そういうキャッチフレーズで表現をしまして、金沢への期待感をテーマに、新幹線の窓明かりが走り抜けていく映像に重ねて、景観、工芸、芸能、食といったさまざまな魅力を発信する、幻想的で旅情感にあふれた内容にするということにしています。お話がありましたように、明年2月には東京スカイツリーのほか六本木ヒルズで、また、開業1年前となる3月には東京メトロの車内で放映し、また、ネットにおいても流していきたいというふうに思っています。

姉妹都市のことについてお尋ねがございました。国家間との交流とは別に、国境をまたいだ都市同士、また、市民同士が歴史・文化の違いを超えて草の根の交流を行い、世界の平和に資するものだというふうに思っています。これまでも私は、例えばナンシー市やゲント市は、若い学生さんの交流を通じて毎年毎年行き来をすることによって、実りある交流になっています。また、イルクーツクにおきましても、

中学生の交流が定期的になされているところでありまして、私は中学生たちにとっても大きな刺激になっているのではないかとこのように思います。蘇州市や全州市は、距離的に近いこともありまして、スポーツや文化や子どもたちの交流が活発になされています。特に昨年、金沢市立工業高校と蘇州と全州の工業高校同士で提携を結びました。まさに、若い層が活発な活動をすることが私は未来につながる交流になっていくというふうに思っています。また、バッファロー市、ポルトアレグレ市は、距離は少々遠いところではありますが、先般、議長団が訪問をいただきまして、金沢マラソンにあわせてぜひ金沢市に訪問をしたい、スポーツを通じた交流というものにも期待をかけていきたいというふうに思っています。そういうところから、特にフランスのナンシー市との中では、日仏自治体交流会議というものが始まりました。これまで3回行われておりまして、来年の秋には第4回の日仏自治体交流会議が高松市で行われるところでもあります。1対1の相互交流から、多対多の交流につながっていくことによって、より幅広い交流が可能、つながっていくことが私は双方の国同士の理解に将来的にはつながっていくというふうに思っています。

また、J C Iの世界会議のことについてお尋ねがございました。1万人を超える日本国内外からの青年経済人がお越しいただく、この意味は大変大きいというふうに思っています。会議そのものも6日間あるところでもあります。相当長い期間にわたりまして、その地域のリーダーが集まってくれます。恐らくは、それぞれの地域に戻られた後も、プライベートであったり、また、ビジネスであったり、金沢・石川県を訪問する機会がふえてくるのではないかと、そういうきっかけになればというふうに思っています。私は、今申し上げました経済効果も大変大切なことではありますけれども、何といたってもJ C Iの旗が、J C Iのフラッグが金沢の空に舞うという意義は大変大きいというふうに思っています。ユネスコの創造都市ネットワークの世界会議も行われますが、やはり国連の旗が金沢の空に舞うという意義は大変大きいというふうに思っています。金沢の都市のグレード、金沢の都市のブランドを上げてくれるというふうに思いますし、そのブランド、グレードをもとに、また多くの方たちが金沢にお越しただいて、金沢に住もうというふうに思っただけの方もきっとふえてくるというふうに思っています。

また、課題もちろんあるかというふうに思っています。何といても2,000人を超える国外からの方たちがいらっしゃいます。このうち宿泊先の確保や会場間の移動につきましては、金沢青年会議所が中心となり、現在、準備を進めているというふうに聞いています。本市といたしましては、外国語のマップやパンフレットを宿泊施設等に重点的に配備するとともに、現在、多言語化を進めていますスマートフォンでの観光情報の提供、商店街などへの買い物の際の外国語対応の協力依頼等を通じ、海外からの参加者のおもてなしに万全を期してまいりたいというふうに思っています。

また、私の政治姿勢についてお尋ねがございました。知事の後援会副会長の件でありますけれども、これ私は、県政と市政が歩調を合わせるということは大切だというふうに思っています。栗森議員のほうから、選挙においてというお話がございましたけれども、私は日々の行動において、県政・市政が歩調を合わせていくということは大切なことだというふうに思っています。特に新幹線開業が目前に迫りました。金沢市のみならず、石川県全域に大きな波及効果を及ぼしていくことが金沢市にとっても大切なことだというふうに思っています、その県政・市政の歩調を合わせるという意味から、副会長をお受けさせていただきました。

また、県・市の正常なあり方と連携のことについてお尋ねがございました。今ほど申し上げましたように、基本的にはやはり県政・市政が歩調を合わせていく、特に大きなテーマがありましたらなおのことだというふうに思っています。市長に私は就任してからもずっと、オール石川、オール百万石ということをお願いしてきました。金沢が発展するためには、石川県が発展することが大切なことだという思いであります。特に今、私は金沢市長であると同時に、石川県市長会会長という立場もいただいているところでありますので、副会長をお受けさせていただきました。これからも県政・市政連携をしながら、しっかりと取り組んでいきたいというふうに思っています。

私のほうからは以上です。

〔「議長、21番、再質問」と呼ぶ者あり〕

○清水邦彦副議長 21番栗森慨議員。

○栗森 慨議員 1つ答弁漏れがあったかと思うのですけれども、私はこの質問の中で、市長が多選について考え方が変わったのかということも聞いてい

たかと思うのですけれども、そのことは明確にお答えをいただきたいと思えます。

あと、県政と市政が歩調を合わせてやっていくことは当然でございます。ただし、現職知事だから後援会の副会長に就任されたというのは、私は少し違ったものかなというふうに思っております。例えば、現職の知事が立候補されていなかったときという場合もございますし、ほかの候補も出られるわけですから、本来、金沢市長としては、現職知事だから推薦するというのは私は間違っていると思っております、やはり中立な立場で選挙を見守りながら、当選された知事と歩調を合わせて市政を運営していくのが当然だと思うのですけれども、そのことについて再度答弁をお願いします。

○清水邦彦副議長 山野市長。

〔山野之義市長登壇〕

○山野之義市長 この議場におきまして、私は多選自粛条例を提案もさせていただきました。私に限らずという形で提案もさせていただきました。議会の皆さんと議論を重ねまして、多選云々は、それは提出した本人個人の問題だという御指摘もいただきました。その思いをしっかりと胸に秘めて、私個人の問題として理解をしているところであります。私は、今、知事さんがいらっしゃる、近隣の市長さんがいらっしゃる、私は今の知事さんや近隣の市長さんと歩調を合わせていくことが大切だというふうに思いますし、さまざまな提案を受けたら、自分のできる範囲の中のことでやっていくのが当然のことだというふうに思っています。

以上です。